



霍公鳥（ほととぎす） 待てど来鳴かず 菖蒲草 玉に貫く日を いまだ遠みか

6月の万葉集 万葉集 巻8-1490 大伴家持
(ほととぎすを待ってはいるが、まだ来て鳴いてはくれない。あやめぐさにひもを通して薬玉にする日がまだ遠いからだろうか。)

待ちに待った、学校・園の再開です！

6月10日、中国、近畿、東海地方に梅雨入りが発表されるとともにアジサイが雨に打たれて鮮やかな青やピンクの色が際立ち、見る人の目を楽しませています。

新型コロナウイルス感染症対策のため、3ヶ月という長きにわたり臨時休業せざるを得なかった学校も6月1日(月)から6月12日(金)までの2週間は、午前と午後に分けての分散登校を、6月15日(月)からは通常の全日授業となりました。幼稚園も6月1日から通常通りの保育を再開しました。

再開にあたっては先月号にも書きましたが、教職員、保護者、子どもたちの協力により、徹底した感染防止対策を講じているところです。特に、国から出された衛生管理マニュアルを参考にして「広陵町立学校・園における新型コロナウイルス感染症にかかる衛生管理マニュアル」を作成し、校園長を通じて教職員に配付して、それを基に感染防止に対応してもらっています。

とりあえず、無事、学校・園が再開できたことに感謝するとともに、学校・園に子どもたちの元気な歓声が返ってきたことが何よりもうれしいことです。ただ、学校においては、休業期間の授業時数を確保することは難しく、夏期休業(8月8日~17日までの10日間)の短縮や2学期以降の学校行事などを精選して、その確保に努めたいと考えています。保護者の皆様には、何とぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

学校・園は子どもたちの命を守ることを最重点に健康で安心安全な生活を送ってもらうことが何よりも大切です。これから夏に向けては高温多湿の日々が続きます。新型コロナウイルス感染症対策とともに熱中症対策にも万全を期して臨んでいかなくてはなりません。教育委員会としても校長会で十分に協議しながら、子どもたちの命・健康を守るための対策を進めます。

今月の一言

笑ってあげなさい。笑いたくなくても笑うのよ。笑顔が人間には必要なもの
(マザーテレサ)



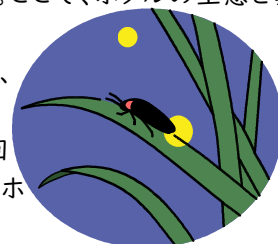
人生において、笑うことはとても大切です。笑うことは、自分にも周囲にも良い影響を与えてくれます。もし、あなたが今、苦しいと感じているなら、笑って気分を変えましょう。

飛ぶホタルに心馳せて

6月に入って、2、3日経った頃、私が住んでいる近くの池から流れ出る小川の辺りでホタルが飛んでいるのを見かけました。この光景は10数年前から毎年見られ、この時期の楽しみの一つになっています。

私は昆虫が大好きで小さい頃から昆虫採集をし、中でも蝶やトンボの標本を数多く作ってきました。また、いろんな種類の虫も飼育し、その生態も研究してきました。ここで、ホタルの生態と教育について少し書かせていただきます。

飛んでいるホタルはヘイケボタルで、澄んだ清き水が流れる清流の周辺に生息するゲンジボタルと比べると、二回りほど小さいホタルで平地に生息するホタルです。



ホタルは卵、幼虫、さなぎ、成虫の4変態、いわゆる完全変態をする昆虫ですが、皆さん、ホタルはこの4変態のうち、どの時期に光るかご存知でしょうか。成虫の時期は当たり前なのですが、他の時期にも光るとお思いになれますか。……

実は、ホタルはすべての時期に光ります。卵は、孵化する少し前ぐらいから、幼虫は卵からふ化したあとの第2齢幼虫から、さなぎは土繭(まゆ)を作って少ししてからです。

ホタルの体内にはルシフェリンという発光物質と発光酵素のルシフェラーゼがあり、それらと体内にある酸素とATPが化学反応を起こして光ると言われています。オスには尾に近い2つの発光帯があり、メスには1つの発光帯があり、それらが光ります。その間隔は2秒前後で、1日のうちで最も活動する時間帯は、午後7時から9時ぐらいまでです。

ところで、飛ぶホタルに心馳せて、教育に関連させると、学校で先生方に教えていただいている子どもたちには、一人一人の輝く光る物(能力)、ホタルに例えるとルシフェリンとルシフェラーゼを持っています。その光る物を輝く光にするのは、酸素とATP、言い換えますと先生方の子どもたちへの厳しい中にも温かみのある指導、情熱、そして愛情であると思います。また、子育てに直接関わっておられる保護者の方々も厳しさと優しさの両面を使い分けながら、深い愛情をもって子どもたちが持っている光る物を光輝かせていただいていると思います。私たち大人は、子どもたち一人一人が持っている能力を最大限引き出すための方法をしっかりと身に付けて、教育及び子育て支援をしていかねばならないと思います。数ヶ月先なのか、1年先なのかこれからは、ウィズコロナ、アフターコロナの時代だと言われていますが、この難局をすべての人々の力で乗り越え、子どもたち一人一人がホタルのように光を放ち、子どもたちの将来が光輝くワクワクするような時代になることを祈らずにはおれません。

